

2020年3月期決算 電話会議での主な質疑応答（要旨）

Q1：2020年3月期第4四半期（3カ月）において東アジアの航空輸出物量が久しぶりに前年同期比でプラスに転じましたが、要因は何でしょうか。

A1：主に半導体関連の出荷が好調であったことが寄与しました。

Q2：旅客便の減便等により輸送スペースが減少し、全体的に運賃原価は上がっているのようですが、上昇分は荷主へ転嫁出来ているのでしょうか。

A2：市場での需給状況をご説明し、基本的にはご理解を頂いています。

Q3：物量が減少している中、直近ではどのような品目が動いているのでしょうか。

A3：全体として弱い中でも、5G関連の半導体等の電子部品、テレワークの増加に伴うPC・通信機器、医療関連品やゲーム機などの荷動きが堅調です。

Q4：今後の事業環境についてどのようなシナリオを想定していますか。

A4：世界恐慌のようなことにはならないという前提で考えれば、9月以降には状況は落ち着いてくるのではないかと思います。米中貿易摩擦の影響等もありますが、IoT、AI、5G、EVなど技術革新に伴う品目の動きは続くものと考えます。輸送スペースの不足はしばらく続くと思いますので、チャーター便の手配など状況を見ながら戦略的にスペース確保を行っていきます。

Q5：直近の日本発航空貨物の粗利益率は改善していると思いますが、物量は減少しています。結果、利益はどのような方向感になっていますか。

A5：今後さらなる物量の減少が想定され、利益額が減少する懸念は払拭できません。

Q6：APLLは、2020年3月期は第3四半期まではコスト削減の効果もあり減収増益で推移してきましたが、足元での減収傾向に対しさらなるコスト削減を行う計画はありますか。

A6：これまで十分行ってきたこともあり、現時点ではさらなるコスト削減は考えていません。

Q7：中期経営計画の見直しの可能性について。

A7：今後の業績動向については、業界の特性としてマイナス、プラスの両方の可能性が

があり、状況を見極めて判断してまいります。

以上